

令和3年度 附属学校園研究支援・特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	義務教育学校の中核を構成するリーダーシップ・フォロアーシップを育む協働学習プログラムの開発
事業実施代表者名	附属釧路義務教育学校長 内 山 隆
実施附属学校名	附属釧路義務教育学校
事業内容 (実施内容について、 1,000字程度で記述)	<p>国内においても過疎化が急速に進む道東地域では、『地域の担い手』育成を念頭においたリーダーシップ教育及び、リーダーのリーダーシップを支えるフォロワーシップ教育が重要になる。本研究は、次代の地域の担い手として、他者を理解し、思いやり、インクルーシブな感覚と自己の責任を持ち合わせたリーダーシップ・フォロワーシップを育む汎用性のある学習プログラム開発に取り組むものである。</p> <p>リーダーシップ教育は、これまで学校内において、特別活動等を中心に経験的に指導されてきたが、教育課程の中で体系的・系統的に意図的に研究・指導されることが少なかった。また道東地域においては、初任段階教諭の割合が多い小規模校や、小規模校であるがゆえに免許外指導が不可避の後期課程が多く存在することから汎用性のあるプログラム（モデル）が求められている。</p> <p>そこで、協働的な学習における、拡大掲示物（絵図）、書画カメラによるリアルタイムでの即時的な映像、iPadを活用して収集したり作成したりした情報等の教材開発や効果的な活用方法について研究することで、リーダーシップ・フォロアーシップの柱となる資質・能力である社会的協働性やリテラシー、コミュニケーション力が育まれるとともに、公立学校に対して、「リーダーシップ・フォロアーシップを育む協働学習プログラム」について情報提供ができると考えた。</p> <p>今年度、これまでの小中一貫した義務教育を構築するカリキュラムの実践と成果をまとめた書籍を『令和の日本型学校教育』への挑戦」と題して発刊した。</p> <p>具体的には、これらの研究を推進するために前期課程では、本経費でアクションカメラとプログラミング教材を購入した。また、一部、義務教育学校の取組の報告書の郵送代とした。アクションカメラについては、主に協働的な学習におけるグループワークの様子や体育科や音楽科、生活科等、様々な場所における学習活動を展開する授業の記録を取り、子供たちの協働的な学習場面におけるリーダーシップ・フォロワーシップの発揮について見取りを行った。プログラミング教材については、プログラミング教育における協働的な学習を促進させる教材として購入し、活用した。</p>

	<p>後期課程では、以前、委託を受けた情報活用能力育成事業を深化発展させ、全ての教科等において教育活動における ICT（特に iPad）の活用に取り組んできた。様々な ICT 機器活用の授業力向上セミナーを企画、実施するなど、積極的に ICT を活用した授業開発、授業研究や公立校への ICT 教員研修支援事業を推進した。</p> <p>その教育研究の土台があり、GIGA スクール構想による一人一台の情報端末整備に際しては、いち早くハイブリッド型の授業を構築し、ICT を効果的に活用した主体的で対話的な深い学びを具現化した質の高い授業実践している。研究成果に関しては、広く教育局、市町村教育委員会を始め多くの公立学校も活用できるように授業力向上セミナーや出前授業、ICT 教員研修支援事業の企画開催を行っている。</p>
<p>成果と課題 (活動の成果と課題について、500 字程度で記述)</p>	<p>前期課程においては、アクションカメラを活用した授業の記録化により、協働的な学習場面でのリーダーシップ・フォロワーシップの発揮や育ちを見取り、授業改善につなげることができた。授業会場を 360 度にわたって記録することができるため、子供たちの様子をつぶさに観察でき、また、子供たちにとっても他のグループがどのような活動をしているのかを確認でき、対話が生まれ、学びを深めることができた。また、それらを活用した授業実践をセミナー等で公立学校等に公開してきた。</p> <p>プログラミング教材については、各教科等での当該單元の中でグループワークの教材として活用し、課題解決に向けて協働的にプログラミング思考を働かせながら主体的・協働的に学ぶ子供の姿に結び付けることができた。</p> <p>また、これらを含めた義務教育学校の取組を収めた報告書を全道の各学校及び教育委員会に送付することにより、複数校や教頭会、教育委員会等の視察や校内研修の講師、セミナー等での実践発表の依頼を受け、本校の取組を広く紹介し、好事例として活用していただくことができた。</p> <p>学校評価においても、「児童がより安心・安全で豊かな学びを深められるよう、ICT を含む教育環境を整備している」に係る質問に対し、保護者 86.6 ポイント、教職員 82.4 ポイントという結果として表れた。児童を対象とした学校環境適応感尺度「アセス」における、学習適応に関する項目は、57.5 ポイントであった。また、公立学校からも特に学習展開や教材・教具の工夫について、自校でも活用したとの複数の報告をいただいた。</p> <p>後期課程では、これまでの ICT 機器を活用した教育実践やコロナ禍でのオンライン授業の研究成果をまとめた「主体的・対話的で深い学びを指向するオンライン授業」と題した冊子を昨年度道内の公立学校及び教育関係機関に提供している。</p>

	<p>今年度はさらに ICT 機器を効果的に活用したハイブリッド型授業の実践を通して、これまでの授業スタイルとの転換により「共同体的学習意識」の変容を視点の一つとして、今後の教育研究に活かしていく方向である。</p> <p>特に、オンライン授業および iPad 等 ICT 機器を活用したハイブリッド型授業の教育研究に関しては、地域のニーズに応じた授業力向上セミナーを数多く企画・周知し、来校型による公立学校教員の「出稽古研修」やリモート開催、講師として派遣型など、道東地区の教員研修支援センターとして、広く地域の教育実践に貢献することができたと考える。</p>
<p>今後の発展性 (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500 字程度で記述)</p>	<p>義務教育学校（9 年間）の中で、各教科等の目標や活動内容に応じ、学習課題や自身の考え、その根拠等を、他者と共有することで「主体的・対話的で深い学び」を実現させ、リーダーシップ・フォロアーシップの柱となる資質・能力である社会的協働性やリテラシー、コミュニケーション力を育むためには、今後一層の視覚的情報の教材化、ICT 機器の環境整備を進める必要がある。</p> <p>加えて、学習指導要領においては、「情報活用能力」を学習の基盤となる資質・能力と位置付け、教科等横断的にその育成を図るとともに、その育成のために必要な ICT 環境を整え、それらを適切に活用した学習活動の工夫と充実を図ることとしている。この点からも、継続的に ICT 環境整備を進めることが喫緊の課題といえる。</p> <p>また、本事業による「リーダーシップ・フォロアーシップを育む協働学習プログラム」については、ホームページ上で実践事例として随時、積極的に情報提供するとともに、授業力向上セミナーや授業実践交流事業等を通して、提案していく予定である。</p>
<p>事業の公表状況 (事業を HP で公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入)</p>	<p>①附属釧路義務教育学校後期課程 HP https://www.hokkyodai.ac.jp/fuzoku_kus_chu/study/semi_ner3.html https://www.hokkyodai.ac.jp/fuzoku_kus_chu/study/semi_nar55.html</p> <p>②附属釧路義務教育学校前期課程 HP https://www.hokkyodai.ac.jp/fuzoku_kus_chu/study/semi_ner3.html https://fuzokushi.ro2.blogspot.com/</p> <p>* 「研究活動」の実践事例、日常の学習活動の様子として紹介</p>

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。

支出実績額内訳

(附属学校名 附属釧路義務教育学校)

区 分	予算額	支出実績額	内訳 (簡潔に記載すること)
旅 費	千円	千円	
謝 金			
備 品 費		166	iMac 1台
消耗品費		173 61	ワイヤレスマイク 3個 トナーカートリッジ 4個
そ の 他			